

黄昭明

(Huang Shaoming)



華東師範大学 教授

言語聴覚科学教育部重点実験室主任、華東師範大学教育リハビリ学専門教授、博士課程指導教官。

主な研究テーマは、就学前の特別教育、言語障害の評価と治療、教育リハビリ学。

中国で初めて、医学と教育を融合させた先進的な幼稚園を創設し、保健医学と就学前教育の融合を実践。国家レベルの研究を数多く主宰し、上海市科学技術進歩二等賞を受賞するなどの研究成果をあげている。

子どもの脳力開発への道： 医学と教育の融合による潜在能力の開発と心身の健康

乳幼児期は、大脳の発育が最も速く、適応性が最も高い時期である。またこの時期に、感覚や知覚、情緒のコントロール、習慣や反応、仲間とのコミュニケーション、言語能力、認知能力などが高められ、生涯の発達に影響を与える。しかし子どもの脳力開発は、やりすぎてもいけないし、大人がやりたいようにするものでもない。医学と教育の融合によって潜在能力開発の科学と質を保障し、より科学的な姿勢で乳幼児の世界を研究・認識し、乳幼児一人ひとりの心身の健康を促すべきである。

私たちは、心理学、小児医学、就学前教育学、情報科学技術など様々な専門分野の知識を集め、乳幼児の早期発達の自然な過程を尊重した上で、最先端の科学技術を取り入れ、現代の情報技術を用いて多種多様な教育ツールと教育スタイルを生み出している。そして、合理的に乳幼児の潜在能力を開発し、乳幼児の成長環境の向上に努めている。

総合感覚器官体験室では、乳幼児の五感発達のニーズに基づき、インタラクティブな環境を設けている。そこではまず、リラックスした状態で乳幼児に感覚器官から情報を受け取らせて、穏やかな気持ちにさせる。そして、感覚的・認知的・運動的能力を一緒に発達させる。「優れた運動能力をもった子ども」という名のプログラムは、医学保健的な角度から運動能力の発達評価を提供するだけでなく、教師にも教育的サポートを提供し、このプログラムを使用する大人はよりクリエイティブに子どものニーズにあった遊びを進めることができるのだ。